

## 第4回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成25年2月14日(木)に19名が参加して「第4回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。今回は、鶴居村幌呂地区と釧路市昭和樋門での「工事箇所見学」と釧路河川事務所での「観察活動報告会」を行いました。

### 「工事箇所見学」

#### ●幌呂地区湿原再生事業について

鶴居村の幌呂地区周辺では、高度経済成長期の河川改修や農地開発などにより、河川の安全や農業生産が向上しました。その一方で、湿原面積は減少し、冠水頻度や地下水位が低下したことにより、湿原植生がクサヨシやオオアワダチソウなどの外来種に変容し、湿原らしい景観が失われました。

そこで、平成24年度から表-1のような目標を達成するため、周辺環境に配慮<sup>※1</sup>しながら工事を行い、湿原の再生を図ります。



表-1 幌呂地区湿原再生事業の概要

現象	課題	事業の目標	具体的手法	期待される効果
・冠水頻度の減少	・湿原面積の減少	・未利用地の再湿原化	未利用排水路の埋め戻し（水はけが悪くなる）	・未利用排水路周辺の地下水位の上昇
・地下水位の低下	・湿原植生の変容	・ハンノキの成長抑制	地盤の切り下げ（元の湿原の地盤高に近づける）	・地下水位変動幅の低減
	・湿原景観の喪失			・湿原植生の回復
				・再湿原化によるハンノキの成長抑制
				・相対的な地下水位の上昇
				・外来種除去
				・湿原植生の回復

#### ※1 周辺への配慮事項

- ①現在の営農活動に支障を与えない
- ②周辺の自然環境に配慮した工程及び工法を選定する
- ③要注意外来生物<sup>※2</sup>に指定されているオオアワダチソウが自生する箇所では、地盤を深く切り下げ、種子や根茎を除去し拡散を防止する

※2 要注意外来生物とは、外来生物法で特定外来生物には選定されていないので規制は課されないが、生態系に悪影響を及ぼしうる生物種。



#### ●昭和樋門改良工事について

樋門は通常開いており、住宅地に降った雨などを川に流しています。しかし、洪水時の増水や津波のように川の水位が高くなった時には、樋門を閉じて川の水が住宅地へ逆流しないようにしています。

昭和樋門では、表-2のように地震時に壊れにくくするために補強し、さらに、災害時には自動で門が閉まるように改良工事を行っています。

表-2 昭和樋門改良工事の概要

工事の目的	工事内容	効果
地震対策	・地盤改良 ・炭素繊維シート補強	地震時に樋門が壊れにくいように、樋門の下の地盤と樋門の底や柱などを補強する
洪水・津波対策	・遠隔監視制御設備	洪水時の増水や津波が予想された場合、自動で門を閉め、川から住宅地への逆流を防ぐ



「観察活動報告会」

午後からは、釧路河川事務所で「観察活動報告会」を行いました。今回の発表者は、釧路湿原川レンジャーの紀国氏と伊勢氏で、日頃の活動を報告してもらいました。

●H24-075 紀国 住枝さんの発表

最初に紀国氏が「私が川レンジャーの会員になって地域を見る目が変わった」と題しまして、報告していただきました。紀国氏は撮影した写真を使って、新釧路川や仁々志別川で見られる様々な動物や植物の話、参加した学習会の話、仁々志別川の水質汚濁や不法投棄などの話を自分の住んでいる地域と絡めながら解説していただきました。



発表する紀国氏



魚をくわえたミンク (新釧路川)



アオサギ (仁々志別川)



夕陽 (幣舞橋)



不法投棄 (仁々志別川)



オオバナノエンレイソウ (花がピン)



ネジバナ (左巻きと右巻き)



チゴユリ

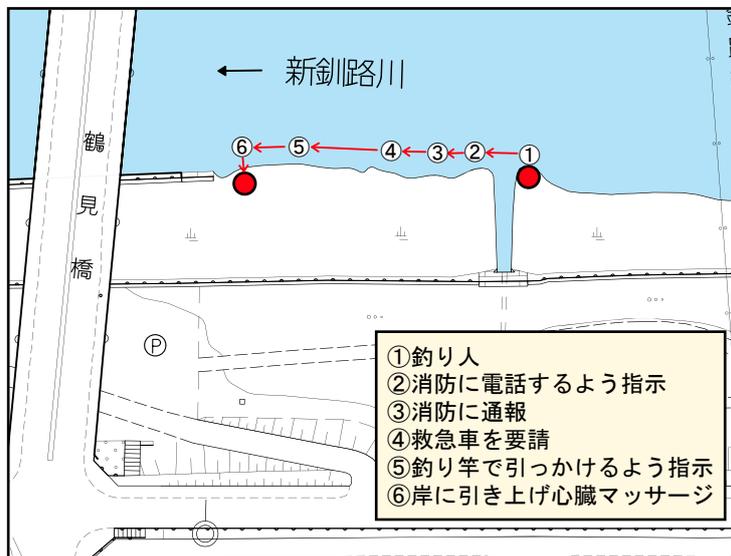
●H24-086 伊勢 志郎さんの発表

伊勢氏が行った人命救助について、報告していただきました。平成24年10月6日に鶴見橋左岸上流で、釣り人が新釧路川に流される事故がありました。その時、近くで釣りをしていた伊勢氏が、周囲の人と協力して川から釣り人を救出しました。釣り人は心肺停止状態だったので、一緒に救助した方が心臓マッサージを行って、蘇生したそうです。

なお、伊勢氏は2回ほど救急講習に参加しており、「今回スムーズに119番通報から救助、心肺蘇生と周囲の人達と連携できたので、機会があったら講習を受けるのも勉強になる」とのお話がありました。



発表する伊勢氏



- ① 釣り人
- ② 消防に電話するよう指示
- ③ 消防に通報
- ④ 救急車を要請
- ⑤ 釣り竿で引っかけるよう指示
- ⑥ 岸に引き上げ心臓マッサージ

図-1 救助説明図

●意見交換

最後に皆さんから一人ずつ感想や意見を頂き、今年度の学習会を終了しました。なお、参加者からの抜粋した意見や感想は以下にまとめました。

- ・自分の知らないことを教えてくれ、知識が非常に豊かになるので、学習会はありがたい存在だと思います。
- ・これからも参加して、自然がどのように変わっていき、人間がどのように変えていくのか。それを見るのが楽しみです。
- ・学習会の案内がきたら、すぐに申し込みをしたいです。案内から募集までの期間が長いと、つつい忘れてしまいます。
- ・昨年行った、オオハングウソウの防除時期について、土が軟らかく、根も張っていない新芽の時期に行くべきなのではないか？と思います。実際に春採湖でその時期に行い、簡単に駆除できました。
- ・自然再生について、湿原のことも併せて勉強会を開催して欲しいです。

